

文字摺通信

第 85 号

2025年 4月 1日

発行:文字摺歴史文化社

滝桜再生事業で

足場の上から桜樹を見下ろしてきました

2月16日(日) NPO 民俗芸能を継承するふくしまの会の用務で「樋渡の三匹獅子舞保存会」を訪問してきました。往路の途次、三春町歴史民俗資料館の藤井典子学芸員が滝桜にいと聞き、立ち寄ってみました。国指定天然記念物「三春の滝桜」は令和5・6年度、樹勢回復のための再生事業で半分足場櫓で覆われていました。

その日は再生事業現地説明会があり、多くの方が訪れていました。県の文化財保護審議会の鈴木俊行会長(天然記念物樹木担当)も補助事業の立ち合い及び現地説明のために現場に来ていました。そこで、私から「樹勢回復というと肥料や栄養剤などを注入するのかなと思いました、足場櫓を組んで、枝払いなどを行っているようですが、どうして枝払いが樹勢回復になるのですか」と質問しましたところ、樹は老いて弱った枝を枯らして、自ら枝を落すのですが、それにかかるエネルギー負担を除去するために枝を払ってやるのです」との答えがありました。なるほどですね。

「XXと煙は高い所を好む」の例え通り、XXな私は、藤井さんをお願いをしてヘルメットを着用し、足場を登らせていただきました。国の天然記念物「滝桜」を上から見下ろす機会はもう二度とないと思われます。樹齢千年の滝桜は幹には洞があり、老木ですが、てっぺん近くの枝は若々しく、まさしく、桜の枝の樹皮をしていました。

聞くとところによると、平成の初年にこの滝桜だいぶ弱って、花もあまり開かなかったようですが、その後、鈴木会長の指導により樹勢が回復し、大勢の桜ファンを喜ばせているとのこと。鈴木会長は、滝桜が枯れてしまったら、次に滝桜が観られるのは千年後ですよ、と力説。見学に来ていた人たちは大きくなついていた。鈴木会長の話では、この滝桜は、樹齢、そしてそのしだれの美しさは日本一だろう、とのことでした。



ご迷惑をおかけします

樹勢回復のための作業をしています

令和 7 年 3 月10日まで
時間帯 8:00~17:00

三春滝ザクラ天然記念物再生工事

工事番号 第6-7-140号

場 所 三春町大字滝字桜久保 地内

発注者 三春町歴史民俗資料館
(連絡先) 電話 0247-62-5263

施工者 株式会社 緑 生 建 設
電話 024-922-7706